

日本ボクシング連盟の問題

日本ボクシング連盟はアマチュアのボクシングの試合の運営管理などを行う団体であり、運営費の4割をJOCからの補助金で賄っている。

山根会長は、ミズノに陣中見舞いとしてミズノ従業員の折田に現金を運ばせて毎年200万円を払わせている。もちろん、日本ボクシング連盟の会計には計上されない。

山根会長は、ミドル級の村田のときのように有名アマチュア選手がプロボクサーになるにあたって、プロのジムからまず連盟に強化費を払わせて、そのような処理を手配したことについての礼金を個人で百万単位で受け取っている。

山根会長は東京に出張する際には東洋大学の東郷武さんの負担で椿山荘の14階角部屋に宿泊することになっている。これは東洋大学から国際大会への試合に選手を派遣するいわば見返りである。

同じように選手の派遣を見返りに様々な金を借りる等しては踏み倒してきている。

山根会長は、婚姻しているが、内海祥子と深い関係にあり、内海を東京事務局副事務局長に据えて連盟から手当を支払っている。

山根会長は、平成29年3月20日、当時近大総監督澤谷が倒れた際に同席し救急の手配を進めた佐藤秀行が救急病院に山根会長より遅く着いたことについて激高して佐藤に何しとるか、帰れ等と怒号し、その意を汲んだ藤咲厚郎理事が佐藤の両肩をどんと強く突き飛ばしたうえで胸倉を掴んで体ごと振り回すという暴行を加えた。山根会長は言葉のうえで一旦止めに入ったようであるが、藤咲は山根会長の顔色を見ながらさらに佐藤に暴行を加えた。

山根会長は、この藤咲理事による佐藤に対する暴行を踏まえて、佐藤を除名処分にした。しかし、佐藤は北海道で多くの選手を輩出している札幌工業高校ボクシング部監督であり、このような理由が合理的でない処分は夢と可能性にあふれる選手の将来を踏みにじるものであって到底許されるものではない。

このような山根会長であるが、東京オリンピックを見据えて、関連する大学や高校等も盾突くわけにいかないため、やりたい放題となっている。

しかし、理念のある東京五輪の競技に関わる団体はこれでよいのか。

【内海祥子副事務局長兼常務理事】

東京事務局を仕切っている副事務局長兼常務理事の内海祥子さんです。

過去から長期間に渡っての山根との愛人関係にあります。

海外であろうが国内であろうが必ず山根に随行しております。

御主人は元税務署関係の偉いさんで、1人息子は山梨学院大学の空手部を卒業して現在はパリ在住でエルメスに勤務しております。

エルメスは材料費に金が掛かるらしく未だに毎月70万円をパリに仕送り送金しております。

日本ボクシング連盟の会長と副事務局長との長期間に渡る不倫です。

私が今まで何度、二人の痴話喧嘩を取り持って来たか分かりません。

その他、2名の女性(山根三枝子さん、山根智己さん)との痴話喧嘩やトラブルはその都度、私が捌いて来ておりました。